

## 「香川の外来生物はいまー野鳥編」

調査部 矢本賢

去る平成 23 年 12 月 10 日に「みんなでつくる香川自然史博物館」行事の「香川の外来生物はいま」シンポジウムで発表する機会がありましたので、その内容を報告します。

### 特定外来生物とは

『特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律』により外来生物（海外起源の外来種）であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるもののの中から指定されます。

特定外来生物は、生きているものに限られ、個体だけではなく、卵、種子、器官なども含まれます。

特定外来生物等鳥類（2011 年 7 月 1 日）には下記の四種類が指定されていますが、四国には今のところ生息は確認されていない。

科	属	特定外来生物	未判定外来生物	種類名証明書が必要
チメドリ Timaliidae	ガルルラクス (ガビチョウ) Garrulax	ガビチョウ (G. canorus)	チメドリ科の全種	チメドリ科の全種
		カオジロガビチョウ (G. sannio)		
		カオグロガビチョウ (G. perspicillatus)		
	レイオトリクス (ソウシチョウ) Leiothrix	ソウシチョウ (L. lutea)	ただし、次のものを除く。 ・ガビチョウ ・カオジロガビチョウ ・カオグロガビチョウ ・ソウシチョウ	
	チメドリ科の他の 全属	なし		

要注意外来生物としては、下記がリストアップされている。

- ・インドクジャク
- ・シジュウカラガン大型亜種
- ・コリンウズラ
- ・クロエリセイタカシギ
- ・シリアカヒヨドリ
- ・外国産メジロ（ハイバラメジロ、ヒメメジロ等）

それ以外にも、すでに日本全国に定着しているコジュケイ、コブハクチョウ、などの外来鳥がいる。

#### コジュケイ

全長約 27cm でハト大。全体的に赤褐色で、眉と胸が青灰色。小群で地上を歩いているところを見かけることが多い。けたたましい声で「チョットコイ、チョットコイ」と鳴いたり、「ピエ～」と鳴いたりする。



#### コブハクチョウ

全長は約 150cm, くちばしの付け根に黒い瘤状のものが有り, くちばしが赤みを帯びているのがほかのハクチョウと異なる。

各地の公園で飼われ, 逃げ出したものが野生化している。



## ソウシチョウ

環境省 自然環境局 野生生物課  
特定外来生物等一覧（最終更新：2011 年 7 月 1 日）

和名 ソウシチョウ  
科名チ チメドリ (Timaliidae)  
学名 *Leiothrix lutea*  
英語名 Red-billed mesia  
原産地 東アジア、東南アジア



特徴 渡りはせず、主に標高 1000m 以上の落葉広葉樹林や竹林などの下層部や藪に生息する。体色は暗緑色で、のどは黄色く、翼に赤と黄の斑紋があり、嘴は赤い。日本では下層植生の発達した森林のササ群落中に営巣する。大きな声で囀る。

定着実績 九州・四国・本州の落葉広葉樹林や常緑広葉樹林に定着し、分布を拡大している。23 都府県で分布を確認している。

被害状況 ■生態系に関わる被害

- ・本種が優占種になることで、群集構造が著しく変化している可能性がある。長期的には同所種や捕食される小動物等への直接間接の負の影響も推定される。
- ・ハワイ諸島では、本種が侵入した地域では、在来ハワイ固有鳥類が衰退したというセンサスデータがある。

ソウシチョウ

取扱い上の注意 -

備考 姿が美しかったり、声がきれいであったりしたために、多数の個体が飼育された。また、伝統的な化粧製品であるウグイスの糞粉の代替品として本種の糞が用いられ、集団で飼育されている。近年、ソウシチョウの輸入は、輸出国の中国の政策および日本における需要等の要因からほぼなくなっている。一方で、飼育が容易でペットとしても魅力があることから広く飼育されている可能性がある。

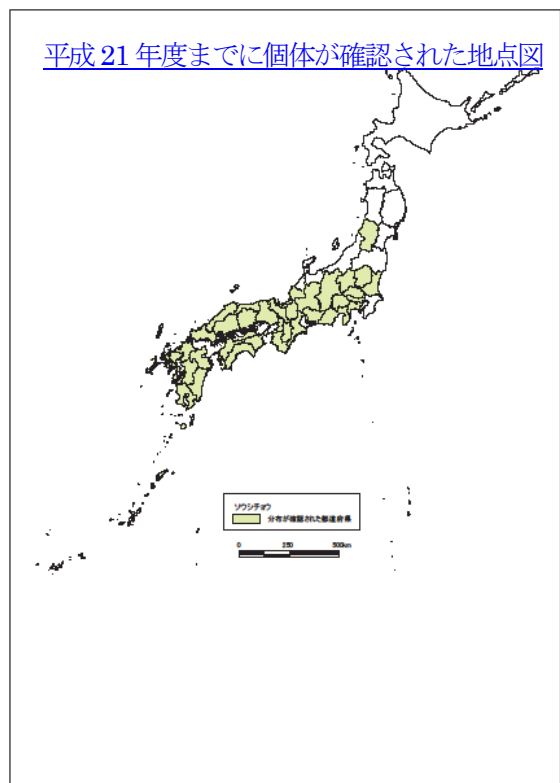


図. ソウシチョウ

## ガビチョウ

和名      **ガビチョウ**  
科名      チメドリ (Timaliidae)  
学名      *Garrulax canorus*  
英語名   **Laughing thrushes**  
原産地   東アジア、東南アジア



特徴      渡りはず定住的で、ヤブに営巣する。羽色は焦げ茶が主体で、比較的地味。大きく、複雑な音色でよくさえずる。熱帯・温帯の下層植生発達した環境に広く生息する。

定着実績   宮城、福島、茨城、群馬、埼玉、東京、山梨、神奈川、長野、福岡、佐賀、大分、熊本の 12 都県。生息環境は、下層植生の発達した低地林（里山）。

被害状況   ■生態系に関わる被害

- ・ガビチョウ類の定着が確認されている、九州・本州の低地林等の里山的森林において、これらの種が最優占種となり、群集構造が著しく変化している。また、長期的には在来種への直接・間接の負の影響も懸念される。
- ・ハワイ諸島においてはガビチョウが高密度で生息し、在来鳥類の衰退の一因となっている。

取扱い上の注意   -

備考      飼育個体の逃亡ないしは故意の放出が、野外への定着の主因である。  
近年、ガビチョウ類の輸入は、輸出国の中国の政策および日本における需要等の要因からほぼなくなっている。

### カオジロガビチョウ 群馬の1県



### カオグロガビチョウ 岩手、埼玉、東京、神奈川、長野の5都県



ガビチョウ

#### 平成 21 年度までに個体が確認された地点図

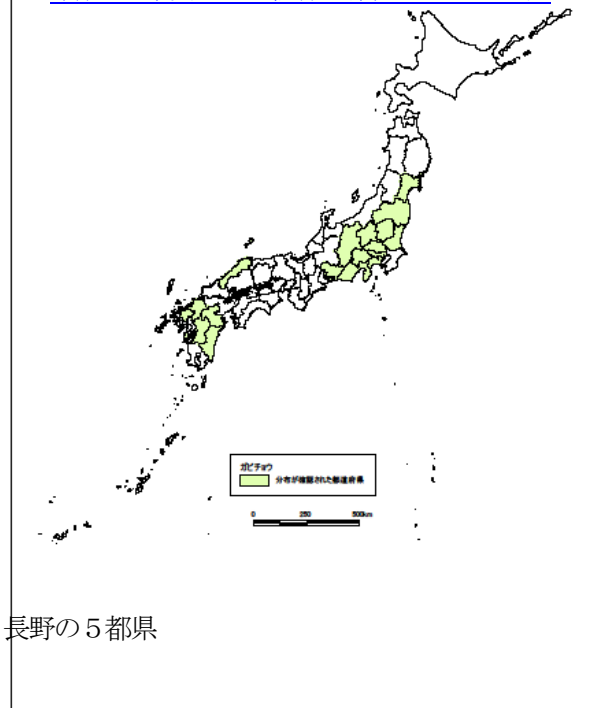


図. ガビチョウ



## 香川県内のソウシチョウ生息状況

香川県内で残っている過去の記録としては、次のものがある。

- ・2007年4月 綾川町羽床上大高見峰 ソウシチョウの生息を確認（香川の野鳥を守る会）
- ・2008年2月 綾川町東分乙 長柄ダム湖 20+（香川県支部）

従来の四国でのソウシチョウの生息情報のあった場所の環境は、ほとんどが標高 1000m 以上のブナ帯の天然林のものであるが、この付近は標高 500m以下の低山部でスギ、ヒノキ、マツ等の森林であり、他の地域からの分布拡大によるものとは考えにくい。

### 新聞記事

#### 鳥300羽逃げ出すーレオマ動物園

四国新聞

2004/09/10 09:40

ネットが破損し、飼育していた鳥約300羽が逃げ出したバードパーク＝ニューレオマワールド

台風16号の影響で綾歌町栗熊西のニューレオマワールド内の動物園・アニマルパーク「バードパーク」のネットが破損し、ペリカン2羽のほか、レンジャクバトなど小型の鳥を中心に約三百羽が逃げ出していることが九日、分かった。

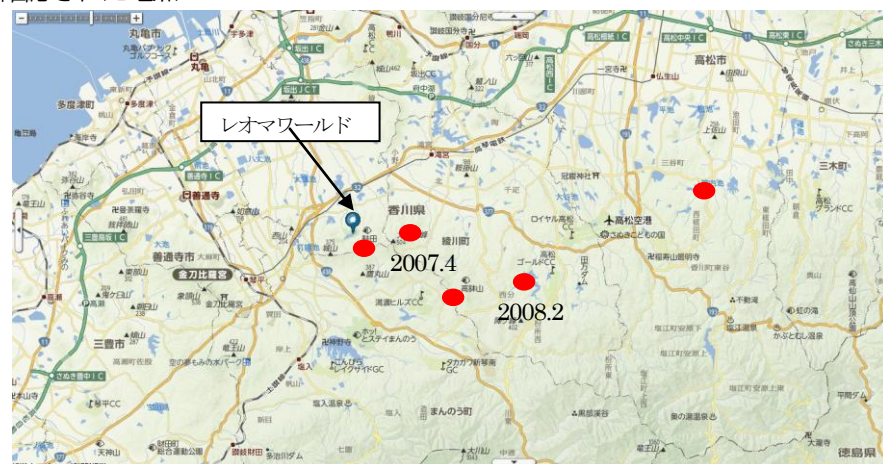
バードパークは約八千平方メートル。敷地全体を高さ三十メートルの網目状のポリエステル製ネットで覆い、八十種約千羽の鳥を放し飼いにしていた。



逃げた野鳥約300羽の中に、ソウシチョウが多数（100羽以上）含まれていたとのこと。

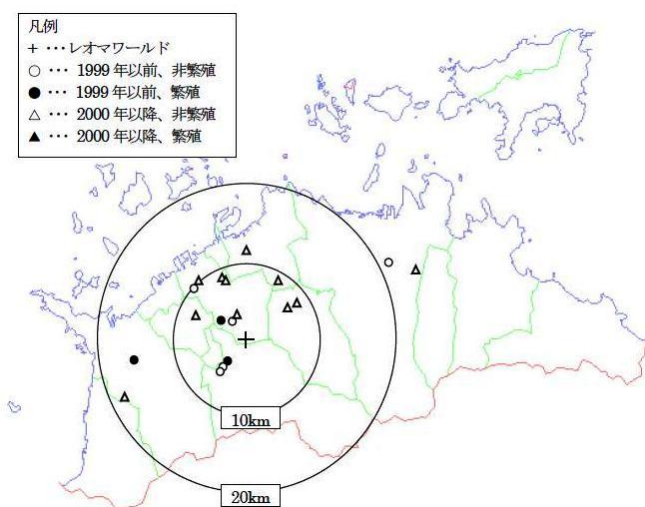
現在では、春先の囀り時期には50羽～20羽の群れを作り竹藪等で繁殖が観察されます。先住のウグイスを追い出すなどの影響は見られないように感じられます。

### 確認された地点



## 香川県内のハッカチョウ生息状況

- ・支部調べでは93年11月、高松市多肥下町での記録が最初。  
以降、90年代を通して旧綾歌町、旧丸亀市、旧満濃町を中心に頻繁に観察されるようになり繁殖も確認された。
- ・現在では、東は高松市東部、西は三豊市西部まで分布を拡げている。  
今後、東讃地方や観音寺市から愛媛県四国中央市にかけての地域へ徐々に進出してゆくものと思われる。
- ・旧「レオマワールド」(91年4月開園のレジャー施設)からの籠抜け鳥が繁殖している可能性が大きい。(2007年時点での状況、図参照)



- ・現在、珍しいと言われていた初期の丸亀市より今日では東に高松市、西は観音寺市、南はまんのう町北は詫間町と県内で確実に繁殖して数を増加させている。
- ・生息エリア拡大と繁殖分布の特徴
  - ・初期にはムクドリの埒と繁殖場所へ侵入して居付き、次第にムクドリの生活圏を浸食して繁殖の拠点を築く。新しい場所では少数の飛来ですが、1年後には群れが形成される。
  - ・餌の確保も、食性が似ている先住のムクドリに混ざって採餌し、ムクドリに絡み繁殖している。
  - ・繁殖の拡大方向は、発展する道路網と市街地を繋いで生息域を伸ばしていく、特に看板塔は集団埒として活用し、その付近で繁殖の拠点を作り市街地の方向に拡大している。
- ・籠抜け当時は少数であったものが、集団となる位繁殖して増えている。他から新集団の侵入(交配)が無くとも永久に増え続けるのか興味がある。





### その他の外来鳥

- ・コブハクチョウ・・高松市内のため池で1～数ペアが04年頃から繁殖し分散傾向がみられる。  
丸亀のため池では、毎年4～5羽の巣立ちが見られる。  
コブハクチョウの繁殖力は大きく、増加が懸念されている。
- ・キンケイ・・・・小豆島で確認されている（繁殖は未確認）
- ・コジュケイ・・・・県内広く分布、繁殖している。

### 簞脱け?

#### コブハクチョウ仲間に／丸亀城内亀山公園

四国新聞

2011/09/27 09:41

倉敷市から贈られたコブハクチョウの幼鳥を楽しそうにながめる園児＝香川県丸亀市一番丁、亀山公園



丸亀城内にある亀山公園（香川県丸亀市一番丁）に26日、5月に誕生したコブハクチョウの幼鳥5羽が倉敷市から贈られた。丸亀市では「市民や観光客を癒やしてくれるお城の楽しみの一つになってほしい」と期待を寄せている。

倉敷市の美観地区を流れる倉敷川のコブハクチョウ空（雄）と夢（雌）の間に生まれた。体長は約1メートルと親鳥に近い大きさだが、体はまだ白色や灰色の産毛に包まれている。来年春には真っ白な羽に生え替わるという。

亀山公園のハクチョウは、1972年に皇居から寄贈された4羽が始まりで、96年ごろには35羽を飼育していたが高齢化などにより孵化（ふか）率が低下し、現在は8羽に減少。市民からはひなの誕生を望む声が高まっており、丸亀市は86年にコブハクチョウの交換を行っている倉敷市に譲渡を呼び掛けた。

この日は同公園で引き渡しがあり、近くの市中央保育所の5歳児32人が見守る中、倉敷市の片山寛一文化観光部長からゲージに入った5羽が贈られ、丸亀市の職員らが堀に放した。園児らは「かわいいね」「丸亀に来てくれてうれしい」と喜んでいた。

市民の方が、ハクチョウとして可愛がり餌やりをする風景が見られる。公園以外での給餌は慎むことが必要である。



今後とも外来種の生息状況は監視していく必要がある。皆さんの更なる情報提供をお願いしたい。

写真情報提供 香川県支部会員